

【氏名】 伊賀 司

【所属大学院】 神戸大学大学院 国際協力研究科

【研究題目】

政治体制とオールタナティブ・メディアー不自由な民主主義国家・マレーシアにおける反体制派とメディア

【研究の目的】

本研究の目的はオールタナティブ・メディアの現状とそれが政治体制に果たす役割を明らかにすることにある。独立以来、統一マレー人国民組織(UMNO)を中止運とする与党連合が 50 年以上にわたって政権を担い続けてきたマレーシアでは、強固な与党支配体制の下、国内のマスメディアは法律と株式所有を通じた経営把握によってほぼ与党の統制下に置かれてきた。しかし、90 年代後半以降、中でも 98 年の当時副首相のアンワールの与党追放後、反体制的な立場をとるメディアが現れ、影響力を持ち始めてきている。さらに近年ではそうした反体制的なメディアは、マレーシア政府が進める IT 先進国化政策を逆手にとった野党や NGO 団体によってインターネット上にも登場し、政府が統制できないメディアが現れ始めている。本研究では、これまでの民主化研究では十分にその役割を認識されてこなかったメディア、中でも反体制的な立場をとるメディア(オールタナティブ・メディア)に焦点を当て、マレーシアを題材にしなが、オールタナティブ・メディアが体制移行にどのような役割を果たすかを明らかにするものである。

【研究の内容・方法】

本研究の内容は目的のところで述べたように、オールタナティブ・メディアが政治体制にどのような役割を果たしているか、調査することにある。そこで重要になるのは、マレーシアでのフィールドワークと、それをいかにして既存の民主化研究の中に取り込んでいくかという点である。現状では、フィールドでの調査の結果、民主化理論の面にも若干なりとも貢献できそうな材料が見つかったと言える。

本研究を行ううえでの方法は、①クアラルンプール、ペナン、シンガポールの 3 都市を中心とした図書館や NGO 団体や野党組織などでの資料収集と、②野党指導者、NGO 関係者、ジャーナリスト、(インターネットの)ブロガーなどへのインタビューという 2 つの柱からなる。滞在期間は 2008 年 3 月から同年 4 月までの 1 か月あまりで途中には、4 年ぶりとなる総選挙が行われた。

マレーシア滞在前の研究計画で述べたように、この期間中には以下の場所で資料収集した。マラヤ大学の中央図書館及び Zaba 記念図書館(クアラルンプール)、マレーシア理科大学メディア研究学部(ペナン)、マレーシア国民大学メディア研究学部(バンギ)、シンガポール国立大学中央図書館、南洋工科大学 AMIC シンガポール)。また、インタビューも研究計画書の線に沿って、4 つの団体やメディア関係者に会って話を聞いた。それは、野党の汎マレーシア・イスラーム党(PAS)の党機関紙・ハラカ(Harakah)、ペナンでアドヴォカシー型 NGO のアリラン(Aliran)が出版しているアリラン・マンズリー(Aliran Monthly)、インターネットのニュースサイト・マレーシアキニ(Malaysiakini)、近年急速にマレーシアで政治的な発言力を

強めつつある個人ブログ(著名ブロガーへのインタビュー)である。また、先述のようにマレーシアの総選挙期間がちょうど滞在時に重なっていたために、テレビや新聞などの選挙報道につぶさに触れることができた。さらに、野党や与党の選挙集会に直接足を運ぶことでジャーナリストたちがどのように活動しているかを観察することができた。

【結論・考察】

本研究によって明らかになったのは、マレーシアでは①オールタナティブ・メディアが体制移行を促進する役割を明確に果たしている点、②そうしたオールタナティブ・メディアの役割はインターネットやテレコミュニケーションといったニュー・メディアを通じて特に強く表れている点、の2点である。この2点は、助成受領者のマレーシア滞在中に行われた2008年3月の総選挙によって劇的に示された。このニュー・メディアを通じたオールタナティブ・メディアの台頭は90年代半ばから本格化する。その背景には、マレーシア政府にIT振興政策があった。皮肉にも、政府自身がオールタナティブ・メディアの台頭を促進したのである。

今後の研究方針と課題として、①現在のオールタナティブ・メディアの隆盛を準備することになった起源と考えられる80年代のNGOや野党活動の再調査、②ニュー・メディアの中でも、時にマスメディアをも抑えて議題設定機能を果たすこともあるブログの展開について考察を深める。また、これらの研究結果を現在も政治学の大きな課題である民主化論の中に位置づけようと考えている。